

1) 研究課題名

浸潤性乳癌間質におけるパーシカンの発現に関する研究

2) 研究の目的と意義

パーシカンはプロテオグリカンの一種で、癌の固有間質、炎症性肉芽組織、胎児性組織などの細胞外基質成分として存在すること知られており、細胞の増殖、分化、再生に深く関わっていると考えられています。これまで我々の研究室では、浸潤性乳癌のなかで最も多い浸潤性導管癌において間質におけるパーシカン発現が、腫瘍径やリンパ節転移といった予後因子と相関することを明らかにしてきました。今回は、さらに浸潤性乳癌のもう一つの組織型である浸潤性浸潤性小葉癌の間質におけるパーシカン陽性細胞数を定量し、統計学的な解析を行ない、予後因子との関連性や浸潤性導管癌との違いを明らかにしようと考えました。

3) 研究の方法

症例はすべて愛知県厚生連江南厚生病院の過去の手術材料（平成 21 年～平成 28 年）から 60 例を選定し、腫瘍の浸潤が最も顕著なパラフィンブロックから切片を作成し、抗パーシカン抗体を用いた免疫組織化学染色を行ないます。各症例浸潤部での単位面積当たりのパーシカン陽性細胞を算出し、統計学的な解析を行ないます。浸潤性導管癌と浸潤性小葉癌の鑑別が組織学的に難しい場合は、浸潤性小葉癌では、E-cadherin が欠失することを利用して E-cadherin の免疫染色を併用し、E-cadherin 陰性例を浸潤性小葉癌とする予定です。本研究は、癌固有間質におけるパーシカンの意義に関する江南厚生病院病理診断科福山隆一部長、千田美歩技師との共同研究の一環として行う共同研究です。

4) 倫理的配慮

研究に用いる材料からは、顕微鏡観察で得た形態学的情報のみを取得し、遺伝子情報などは検索しません。症例の識別に氏名は用いず、新たに付した検体番号のみを使用し、第三者による個人の特特定ができないように配慮します。臨床所見、病理情報も匿名化されたデータとして扱います。

5) 研究機関

名古屋大学医学部保健学科

6) 苦情等の連絡先

名古屋大学医学部保健学科庶務掛

電話番号：052-719-1504

名古屋大学医学部保健学科検査技術科学専攻病因・病態検査学講座

長坂徹郎

住所：名古屋市東区大幸南一丁目 1 番 22 号

電話番号：052-719-3152, FAX:052-719-3152